

郝 亮「日本での生活」

帰国してから、もう半年になりました。今、大学の静かな研究室で、鄧麗君さんの「北国の春」を聞いていると、頭の中に日本での生活が浮かんできます。ここで自分の日本での生活をまとめて報告させていただきます。

日本に着いた時、日本語は全然分からなかったのです。妻は日本語ができるけど、本場の日本語を勉強するために、千葉大学国際教育センターと千葉市国際交流協会でも日本語を勉強しました。私は、毎日単語を覚えたり、文法を勉強したり、日本語の文章を読んだり、研究室の日本人の学生との練習を通して、半年を経て、大体日常生活レベルの日本語を話せるようになりました。1年間の勉強をしてから、ドキドキでしたが、日本金属学会大会にて全部日本語で研究を発表しました。しかし、残念ながら日本人の学者からの質問は、日本語の不足のせいできちんと答えられませんでした。このため、もっと一生懸命頑張りました。2年間の勉強後、専門の研究と日常生活で訓練したおかげで、やっと流暢な日本語ができるようになりました。勉強の過程はつらかったですが、面白かったです。ここでとくに感謝したい人は私のボランティアの先生——佐藤先生です。日本のボランティア制度は偉い事業だと思います。たくさんの日本人が定年後ボランティアとして、公益の事業を担い、たくさんの人を助けることができます。この精神を真剣に受け止めて、ほかの人を助けるチャンスがあれば、私も力を尽くしたいと思います。

日本に来て先進的な科学技術と教育方式を勉強し、習得しました。ふるさとの環境汚染の問題を解決するために、努めていた会社を退職して日本に来て、先進的な光触媒技術を勉強し、研究しました。指導教官の魯先生の指導で、3年半の研究を経て、いくつか研究成果をだすことができました。約20篇の科学雑誌論文を発表して、光触媒技術の応用に向けた更なる一歩を進めています。私の夢は博士後期を修了した後で、環境処理に関する技術の開発と応用の仕事をすることでした。

今は私の夢を実現し、中国の天津科技大学で教員と研究者として、働いています。光触媒の原理と応用の研究を続けて、商品化に向けて頑張っています。それを通して、自分の両親と兄弟たちに綺麗な水を飲ませて、汚染による病気を遠ざけたいです。3年半の日本での勉強を経て、中国と違う教育方式を体験し、自分の視野を広げました。例えば、中国では知識の伝授が最も重要であるのに対して、日本では研究方法がもっと重要だと思います。この考え方のチェンジは私の教員としての将来に役立ちます。

日本での3年間、研究と言語のほかに、日本文化にも興味を持ちました。日本語がよくわかるようになって、中国の歴史に興味がある宮地さん(70歳)、中国人の男性と結婚した加藤さんなど、たくさんの日本人の友達をつくりました。チャンスがあれば一緒に食事をして、あるいは旅行をしました。そして、これらの友達たちの熱烈な勧誘で、何回もお宅まで招待され、本場の日本人の住宅を見て、本当の日本人の生活を体験しました。色々なことを話して、日本の文化(例えば、食事文化と宗教文化など)を勉強して、それで日本人

の考え方の一部分を理解しました。私も時々日本人の知り合いを招待して、手作りの中華料理をご馳走し、中国の文化を紹介しました。私は、中日両国の国民の深い交流を通じて、両国の友好をどんどん増進できると確信しています。

最後に、渥美国際交流財団に感謝しております。渥美財団の奨学金を応募する前は、生活費と学費のために、よくアルバイトをしましたから、研究と勉強の時間がいつも足りませんでした。休む時間もほとんど無かったです。渥美財団の陰で、生活環境を改善し、自分の学業に専念でき、いい成果をだすことができました。多くの国からの奨学生とも友達になり、さらに広い分野の研究を理解しました。お陰様で、私と世界を連結させるチャンスをいただきました。